

平成28年度第4回政策会議

日時 平成29年2月2日（木）10:00～10:30
会場 市長会議室
参集者 工藤市長 中林副市長 片岡副市長 川越企業局長 山本教育長
種田企画部長 入江財務部長

「はこだてグリーンプラザ」整備基本計画（素案）について

◎対応 平井中心市街地担当部長 谷口経済部長
中村中心市街地担当課長

◆ 議題の趣旨 ◆

「はこだてグリーンプラザ」整備基本計画（素案）について協議しました。

◆ 協議の結果 ◆

事業の内容について了承されました。

◆ おもな発言 ◆

■ 平井中心市街地担当部長

中心市街地における歩行者通行量や空き地・空き家等の状況では、平成27年度にわずかながら改善の様子が見られており、みらい館など周辺の公共施設整備に合わせてグリーンプラザを再整備することにより、更なる賑わいの創出が期待できるものと考えている。

平成25年度以降、グリーンプラザにおけるイベント開催件数は、グルメサーカス等大型の催事により件数・参加者数ともに増加傾向にある一方で、年間稼働率は日数ベースで約3割に留まっていることから、整備にあたっては、イベント開催のための機能強化とともに、日常時にもどれだけ人を惹きつけられるかということが重要と考えている。

市民等からのアンケートやヒアリング結果においても、イベントや催事が楽しい賑わいのある場所としての機能向上と、休憩・散策をして過ごす場所など、家族でゆったりと過ごせる空間の整備という2つの方向性を望む意見とともに、観光スポットとしての整備も必要とする意見が多く挙げられた。

こうした状況を踏まえ、整備にあたっての基本コンセプトを「市民そして来訪者もここで過ごしたくなる、新しいグリーンプラザ ～日常の潤いある空間再生と新たな魅力づくり～」とし、その実現のため4つの基本方針を定め、市民、観光客、地元商店街が密接に関わることにより、函館駅前・大門地区を常に回遊する人の流れが出来るような整備イメージをめざすこととした。

具体的には、グリーンプラザの昼、そして夜の両方の魅力を高め、思わず写真を撮りたくなるような空間とするため、植物、水辺、光、木製遊具、ベンチステージ、フォリーという6つのアイテムを設定し、これらをA～Cの3つのブロックに効果的に配置することとした。この整備内容は、「中心市街地トータルデザイン」

における「マチ庫」や「ゾーニング」などの特徴的な考え方を踏襲したものである。

Aブロックは「花とみどりと森」をテーマとし、樹木や宿根草により、地域の魅力が通年連続する花の仕掛けを施し、家族連れなどが日だまりや緑の木陰でゆったりと過ごすことが出来る空間をめざしている。このブロックには花と緑の管理・活動のための拠点、休憩所、トイレの機能を持ったフォリーを設置し、シェアガーデンの発想を活かした取組みを進めることとしている。

Bブロックは「催しの舞台」をテーマとし、日常時は利用者が滞留し、くつろげる空間として大きな芝生広場を設けるとともに、新たに大小のベンチステージを設置し、少ない労力で各種イベントを開催できる利便性の高い広場をめざしている。これらの用途に合わせ、イベントの備品などを収納する倉庫機能をもったフォリーと、インフォメーション機能や休憩のためのフォリーを整備する。

Cブロックは「くらしと遊びのプラザ」をテーマとし、裸足で安心して遊べる大きな水路を設置したウッドデッキや、冬でも遊べるガラスのフォリー、トイレなどを配置し、子供達の遊ぶ姿と、それを見守る親や高齢者の姿が日常的に見られるような空間をめざしている。

A～Cそれぞれにおいてシンプルでスマートな中にも温かみのあるデザイン性の高い空間を目指しているが、ここに訪れたいと思う人の心が加わることが大切と考えている。

現在、グリーンプラザの維持管理にかかる指定管理料は年間約860万円となっているが、新たに芝生の管理やトイレ等の増設、利用促進のための事業費などが発生することから、整備後の指定管理料は年間約1,500万円、また、概算事業費については、既存施設等の撤去費用を含め9億5,040万円と見込んでいる。

今月中にはパブリックコメントを開始して4月に本計画を成案化し、平成29年度に基本設計、30年度に実施設計を経て、31年度からの整備を予定している。

■工藤市長

人を惹きつけるようなおもしろさを出すには、ハード面だけではなくソフト面にも気を配らないといけない。単なるハード整備では以前と同じで、また人が来なくなってしまう。日常の中にありながら日常でないような、普段の暮らしや生活を忘れるような空間を作らないと、ぶらっと訪れるような空間にはならない。

奇をてらう必要はないが、遊具やベンチなど一つひとつのものにも気配りをして、ありきたりではない、例えば、写真を撮ったときにベンチ自体が被写体となるようなものを整備することが必要。普通の公園にあるようなものではだめだ。

■平井中心市街地担当部長

そういった部分については、基本設計において、あらためて考えをまとめていきたい。

■工藤市長

光を使った夜の仕掛けをどのようなものにするか。トレヴィの泉のように、再び訪れたいくなるような仕掛けがあるとよい。

■平井中心市街地担当部長

夜の仕掛けについては色々検討している。駅前のみらい館やキッズプラザは屋内で遊ぶスペースなので、駅前で遊んだ後にグリーンプラザに来てまた遊べるなど、

駅前とグリーンプラザを行ったり来たり出来るような空間になればよいと考えている。

■工藤市長

ファミリーの人達などにそういった利用をして貰えると良い。

■平井中心市街地担当部長

シェアガーデンなどの自然とのふれあい、また、自らが手を動かし創り上げるといった作業を行うことが、多くの年代で支持されていることから、プランターづくりや宿根草の寄せ植えなどを通じ、自らの手でグリーンプラザをつくっていくという取組みを平成29年度から実施していきたい。

■工藤市長

野外活動のようなものにするとうい。人が何か作業をしていれば自然と人は集まってくるようになる。現在のグリーンプラザはイベント時を除き、人が歩いたり座ったりしていない寂しい空間になってしまっている。

■平井中心市街地担当部長

人が居ない空間には、観光客も集まってこない。

■工藤市長

現状、夜に観光客が行くところとすれば居酒屋ぐらいしかない。少しでも外に出て見て歩けるような仕掛けが必要だ。

■平井中心市街地担当部長

例えば、居酒屋で食事をしていても、ある一定の時間になったら何かが始まるからグリーンプラザまで見に行くような、そういった仕掛けを考えていきたい。

■種田企画部長

他に意見がないようなので、はこだてグリーンプラザ整備基本計画（素案）は決定とさせていただく。